



# 「コミュニケーション編」



携帯電話やインターネットの普及で、コミュニケーションをとる手段は格段に増え、便利になりました。しかし、その一方で、子どもたちは大人とふれあう機会が減り、異なる考えを持つ人とのコミュニケーションが難しくなっています。大人同士であっても、忙しい中でお互いの時間が合わないなどの理由で、コミュニケーションがうまくとれないことがあります。

家族・学校・地域といった様々な場面で、相手の状況を考えながら、“会って話す”“電話で話す”“メールをする”といった手段を効果的に使い分けていくことが必要です。

ここでは、この教材を利用して2010年2月に千葉市生涯学習センターで地域の保護者を対象に開催された勉強会から得られた参加者の感想を紹介するとともに、内容を再構成した50分のモデル指導案をご紹介します。

## 受講者の感想

現代のコミュニケーションのあり方が浮き彫りになって考えさせられる内容だった。

メールの書き方や電話での話し方など、受け取る相手によって変わってしまうので、気をつかうことが必要だとあらためて思った。

親子のコミュニケーションが必要であり、子どもの話をよく聞いてあげることが大切だとわかった。

家族間、クラスメイト、担任・保護者関係、それぞれの解決法が参考になった。

大人も子どももコミュニケーションの取り方が下手になっているのをしみじみ感じた。



## モデル指導案のねらい「コミュニケーション編」

### 1 コミュニケーションの手段を使い分ける

日常生活の中でなにげなく使い分けている“会って話す”“電話で話す”“メールをする”といったコミュニケーションの手段を見直すきっかけになります。

### 2 それぞれの立場を想像する

子ども、大人、学校、それぞれの事情でコミュニケーションの取り方が変わります。お互いの状況を想像しながら、コミュニケーションを取ることを意識するきっかけになります。

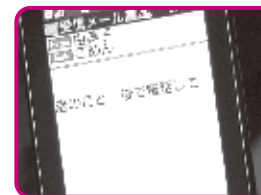
### 3 参加者の交流の場にする

感想や意見を交換する時間を設定しています。様々な家庭でのコミュニケーションの取り方を共有して、何かあったときにお互いに相談しあえる関係づくりをするきっかけになります。

## 映像教材のあらすじ

### NHK『ケータイ親子の道しるべ』～家族のキズナ～

中学3年生の女の子と母親、そして父親(単身赴任中)の3人家族の物語。女の子と母親は一緒に暮らしてはいますが、すれ違いがみ。女の子は友だち関係で悩んでいることを、母親に相談しそびれてしまいます。そんな中、母親は、担任の先生が保護者に向けてクラスの状況を知らせるメルマガを目にし、先生に学校で変わったことはないか相談してみます。少しずつ歩み寄り始める親子。ドラマを通して、メールや電話、対面などその時に応じた適切な伝え方を考えていきます。



## 2. コミュニケーション編 モデル指導案

時間	学習活動と内容 ◎は参加者の活動、 「」は講師のセリフ例を意味する。	進行上、留意する点	資料など
1 min	<b>1. 講師の自己紹介</b> ◎講師の自己紹介を行う。 ※少人数であれば、参加者も簡単に自己紹介する。	●参加者が話しやすい雰囲気をつくる	
1 min	<b>2. 内容を確認する</b> 「本日のテーマは、コミュニケーションの手段と使い分けです。NHKで放送された『ケータイ親子の道しるべ』というドラマを見ながら、コミュニケーションについて考えていきます。」 ◎講座の目的を理解する。	●本授業の目的を確認する。	
3 min	<b>3. グループづくり</b> 「まずはじめに、話し合いを行っていただくためのグループをつくります。時間を2分とりますので、3名～4名のグループをつくってください。できれば、お互いにこれまであまり話したことがない人同士が集まってください。」 ◎話し合いをするため、3～4名のグループをつくる。	●普段から話したことがない人同士で組むようにながす。 ●次に進む前に、グループに入れない人がいないか確認する。	
2 min	「それでは、さらに時間を2分とりますので、お互い活発な話し合いができるいい雰囲気をつくってください。方法は各グループにおまかせします。では、どうぞ！」 ◎今後、意見を自由に言い合えるための雰囲気をつくる。 ※「自己紹介をする」「グループ名を決める」「最近興味があることを紹介する」などの題材を指定してもよい。	●会場内を巡回して、話が弾まないグループがあれば話題を提供するなどして支援する。	
15 min	<b>4. ビデオを見て考える</b> 「それでは、今から『家族のキズナ』というビデオを見ていただきます。14分程度あります。『会って話す』『電話で話す』『メールをする』これらをコミュニケーションを取る相手のことを考えながら使い分ける、家族と学校の物語です。ビデオを見た後は、コミュニケーションの取り方について、感想をグループで話し合ってください。『どんなことを話そうかな』と考えながら見るようにしてください。」 ◎ドラマを見て、意見を考える。	●ビデオを見た後のことを伝えることで、目的意識をはっきりさせる。	★映像教材 NHK『ケータイ親子の道しるべ』 第2話『家族のキズナ』
1 min	<b>5. 映像の補足説明</b> 「(ビデオ終了後)いかがでしたでしょうか。いろいろ感想を持たれたと思います。このあと、グループのみなさまで感想を話し合ってくださいなのですが、その前にドラマの内容について2点、補足説明をいたします。」 ◎ドラマの中で出てきた内容を補足する。	●数多くの意見を引き出す。	
2 min	<b>補足ポイント1 学級通信をメールで送る</b> <b>シーン1:</b> 担任の先生がメールマガジンで保護者あてに学級通信を配信する。 <b>▼学級通信をメールで送るシーン</b> 「学校によってはメールを使っているところとそうでないところがあります。ドラマの中でも先輩の教師が話していましたが、良い点と悪い点がありますので、そのあたりは悩みながら工夫されています。プリント、メール、連絡帳など、方法はいろいろありますが、ぜひ、学校からの連絡には目を通すようにしてください。」		★解説スライド 「学級通信をメールで送るシーン」

時間	学習活動と内容	シーン	資料など
2 min	<b>補足ポイント2 渚とエリのケンカの原因</b> プロフについて <b>シーン2:</b> 仲良かった渚とエリが険悪になったのは、二人で撮った顔写真を渚が勝手に自分のプロフ(プロフィールサイト)の掲示板に掲載したことが発端になっている。エリがそこに写真を掲載したことに対する抗議を書きこんで以来、お互いを避けるようになってしまった。 <b>▼プロフとは?</b> 「自分のプロフィールや写真を公開するサービスです。友人だけに公開するつもりで、無防備に個人情報や不適切な内容を書いてしまう危険性があります。そこに、みんなで情報交換したり、意見を言い合ったりするための掲示板を設置している場合も多く、今回はそれがトラブルの原因になりました。」 <b>▼プロフとは?</b> 「他にも、同じように情報発信するものとしてブログがあります。簡単な操作で記事を書くだけで、ホームページが作成できます。パソコンをリビングなどに置いて行えば、家族も確認しやすくなります。」	 	★解説スライド 「渚とエリのケンカの原因 プロフについて」  ★解説スライド 「プロフとは？」
5 min	<b>6. グループで感想を話し合う</b> 「今から5分、時間をとりますので、グループのみなさまで感想を話し合ってください。どんな感想が出たか、後でうかがいます。では、はじめてください。」 ◎ドラマを見て考えた意見や感想を話し合う。 ※参加者自身のこれまでのコミュニケーションの取り方と照らし合わせるようにして考えさせてもよい。	●できるだけ、グループ内の全員が意見を言えるようにながす。	★解説スライド 「ブログとは？」 ★資料「プロフ・ブログの公開経験(中2・高2)」
5 min	<b>7. 感想を全体で共有する</b> 「では、各グループでどんな意見が出たか、教えてください。」 ・出た意見は黒板で箇条書きにまとめてみる。 ◎各グループで出た意見を順番に発表する。 ※人数が多い場合は挙手制にしてもよい。	●数多くの意見を引き出す。	★黒板 ★チョーク
1 min	<b>8. 振り返り・解説</b> 「いろんな意見を出していただきましたが、ここからは、ドラマのシーンを振り返りながら、解説をしていきます。」 ◎ドラマの場面を振り返りながら、問題点やコミュニケーションの取り方について理解する。		
3 min	<b>解説ポイント1 子どものコミュニケーション</b> <b>シーン3:</b> 渚とエリはお互いを避けるようになっていったが、学校で顔を合わせても、なかなかお互いに歩み寄るきっかけを見いだせない。最終的には、母親のアドバイスを受けて、メールであやまった。すると、エリから電話がかかってくる。渚は一瞬「どうしよう」とまどいながらも、母親の一言に背中を押されて、電話に出た。 <b>▼子どものコミュニケーションの傾向</b> 「異なる年代の子どもの遊んだり、地域の大人と関わる経験が少なくなってきたり、同じ年代の子どもの過ごす時間が増えています。また、メールで顔の見えない相手とコミュニケーションをうまく話を合わせる必要から、周囲と同調することは得意になってきています。一方で、自分と違う意見を持つ相手と交流することを苦手としています。そのため、一度くずれた人間関係を修復することができず、いじめなどの人間関係のトラブルにつながることもあります。」	 	★解説スライド 「子どものコミュニケーション」

続きます

時間	学習活動と内容 ◎は参加者の活動、 「」は講師のセリフ例を意味する。	シーン	資料など
3 min	<p>解説ポイント2 親子のコミュニケーション</p> <p>シーン4:冒頭の父親を駅まで見送った帰りのシーンでは、母子とも携帯電話を操作したり、通話したりですれ違いがあった。 「最近、こういう場面をよく見かけます。」</p> <p>シーン5:渚が母親にもじもじしながら悩みを相談しようとしたところ、仕事を優先して後回しにした。しかし、結果的に部屋に一人で閉じこもってしまい、相談のきっかけを失った。 「普段、子どもが何か言いたそうにもじもじしていることはありませんか？」</p> <p>シーン6:母親から渚と一緒に買い物に出かけようと誘い、二人の距離が縮まったところで帰り道に悩みを聞きだした。 「買い物以外でも、親子で一緒に何か同じことをする、というのには、コミュニケーションを取るきっかけになります。」</p> <p>▼親子のコミュニケーション 「親も子ども、顔を合わせているのにお互い携帯電話を持っていて日常的に別の相手のことが気になることがあります。また、何か言いくくそうにもじもじしているときは、子どもが悩みをかかえているときかもしれません。大人としても忙しい中で、子どもとどのように接していくかというのは、難しい問題ですが、普段から意識しておくことが大切です。」</p>		<p>★解説スライド 「親子のコミュニケーション」</p>
3 min	<p>解説ポイント3 親同士のコミュニケーション</p> <p>シーン7:渚の態度に異変を感じた母親は、父親に相談しようとして電話をかけた。しかし、父親は会議中だったため電話に出られず、メールで返事をした。その後、電話で相談して、学校からきたメールマガジンにのっていた教員のアドレスあてにメールで相談をした。</p> <p>シーン8:学校からの報告を受けた母親は、すぐに父親に電話をかけようとしたが、仕事にかましかれないと思いついてメールで連絡した。</p> <p>シーン9:父親が単身赴任先から戻ってきて、夫婦そろって学校を訪問。教員と相談した。その後、お互いになにかあれば連絡を取り合うことが重要だと、あらためて確認しあった。</p> <p>▼親同士のコミュニケーション 「やはり、問題があるときは、ひとりで抱え込まず、すぐに相談をすることが大切です。そして、“会って話す”“電話で話す”“メールをする”といったさまざまなコミュニケーションの手段を、相手の状況に応じて使い分けていくことが、有効な問題解決につながっていきます。」</p>		<p>★解説スライド 「親同士のコミュニケーション」</p>
3 min	<p>9. グループで感想を話し合う</p> <p>「解説を受けて、いろいろお感じになられたことがあると思います。この講座をきっかけに、学校・学級の単位でも、保護者同士で交流する機会を増やしていけるといいでしょう。最後に、グループでもう一度、感想を話し合ってください。」 ◎解説をふまえて、感想を共有する。</p>		

ここに掲載したモデル指導案は、家庭教育学級や保護者懇談会、PTAの研修会などで講座を開催される場面を想定した内容になっています。50分で展開する内容としてご提案いたしましたが、さらに長い時間が設定されている場合には、参加者同士の話し合いの時間を増やしたり、解説をゆっくり進めることで、より充実した内容になるでしょう。

大人だけが参加する場面以外でも、小学校・中学校の学級活動や総合的な学習の時間、情報科、道徳、国語などの日常の授業の中でも活用可能な内容になっています。

映像教材『家族のキズナ』を視聴しながら“会って話す”“電話で話す”“メールをする”という3つのコミュニケーション手段の、それぞれのよいところや不便なところについて考えていく、といった授業展開が考えられます。

また、授業参観の時間で、先生方が児童・生徒を対象に映像を見せながら授業を実施された後に、保護者懇談会などの場で、保護者同士が感想や意見を共有して議論を深める、といった展開も可能です。

詳しくはNPO法人企業教育研究会・事務局までお問い合わせください。  
(お問い合わせ先は20ページに掲載)

